

東北大学附属図書館報

木這子



BULLETIN OF
THE TOHOKU UNIVERSITY LIBRARY

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

学ですが、図書館が果して多くの利用者の求めているものを満たしているかどうかということについては絶えず自己点検をする必要があろうかと思います。どんな組織であれ完全無欠なものはありませんし、また周囲の環境や内部の諸条件の変化に応じて図書館自体も変っていく必要があるのではないかと思います。図書館は「成長する有機体」なのですから。

図書館システムが有効に機能し、大学における研究・教育活動に大きく寄与するためには、図書館員の努力とともに、教職員、学生の皆様のご理解とご協力を得なければなりません。この点につき心からお願い申し上げます。非力ではありますが、私も図書館の一員として努力していきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

外国雑誌センター館会議（第13回）について

標記会議が、昭和60年2月22日（金）13～17時
東京工業大学附属図書館で開催された。

出席者は、文部省から学術情報課長、専門員、
大学図書館係長、同係員、各外国雑誌センターから
次の大学の関係者の合計30名であった。

医学・生物学系	大阪大学、東北大学、九州大学
理工学系	東京工業大学
農学系	東京大学、鹿児島大学

社会科学系 一橋大学、神戸大学

会議は、先ず、文部省学術情報課長及び東京工業大学附属図書館長の挨拶があり、次いで、各外国雑誌センター館から、現況、利用状況、60年度収集誌選択の方針等について報告があった。

続いて、昭和60年度新規購入希望タイトルの重複調整、外国雑誌センター館現行受入雑誌目録の改訂についての審議が行われた。

図書館業務機械化検討の状況（7）

昭和60年2月～4月

雑誌業務WG：第9回（2/18）コード表の見直しについて

受入業務WG：第8回（2/22）第3年次報告の受入業務WGのまとめについて

目録業務WG：第8回（2/15）第3年次報告の目録業務WGのまとめについて

閲覧業務WG：第10回（2/21）移行計画について

合同WG（雑誌・受入・目録）：第4回（2/27）、

第5回（3/14）雑誌と図書の区分について

WG連絡会議：第12回（2/15）、第13回（2/25）、
第14回（3/7）、第15回（3/14）、第16回（3/22）
第3年次報告のまとめについて

図書館業務機械化掛長等懇談会：第13回（4/25）

各WGの昭和59年度検討結果について、本学の図書館情報処理システムについて

東北大学図書館情報処理システム計画

(第3年次報告) について

本学の図書館業務機械化計画構想の具体的な事項の検討結果については「東北大学図書館情報処理システム計画」(第2年次報告)で述べた通りである。

標記第3年次報告は、昭和59年度の図書館機械化対象業務の検討として、5月に「図書館業務機械化ワーキンググループ」を雑誌業務、受入業務、目録業務、閲覧業務毎に再編成をし、特に今年度は各分館(医学分館、北青葉山分館、工学分館、農学分館)からも実務担当者の参加を得て、引き続き細部の具体的事項について検討をした。また第2年次報告書の検討事項の見直しをすると共に、一部修正を行った結果を記したものである。

本学附属図書館の学術情報処理システムの基本構想は、全国学術情報ネットワークシステム構想を基調とした、全国ネットワーク構成における東北地区の地域センター館(RC)としての機能・性格を備えたシステム構成である。

学術情報センター(NC:東京大学文献情報センター)が開発していた目録システムが完成し、RCレベル(東京工業大学、名古屋大学、大阪大学)の大学図書館とのネットワーク接続によって、昭和60年4月から目録・所在情報サービスを開始する予定である。

この様に、学術情報センター目録システムの完成によって、第2年次報告での受入・目録サブシ

ステムの変更、再構成が必要となってきた。第2年次報告のシステム構成の変更部分は、①IPFの分散化をやめ、全学集中管理処理を行なうためホストシステム管理下におき、各館はオンラインにより受入、オリジナル目録を行なう。②原則として、目録処理は、TSSモードによりNCの目録システムで処理し、登録してから本学の所蔵データベースを構築する。③Japan MARCは持たない。④片平地区の各研究所図書室には当分の間、各図書室ごとにWS(ワークステーション)をおきホストシステムと直結するなどである。

報告書の内容は、第1章、東北大学図書館情報処理システム構想の基本的概念と構成について、第2章、各ワーキンググループの検討状況、第3章、コード関係、附属資料とからなっている。

この第3年次報告は、第2年次報告の追補版であり、本学図書館情報処理システム構想の全体を理解するためには両編を併せてご覧いただきたい。

なお、図書館業務機械化の具体的な作業は、第2年次報告、第3年次報告を基本として計画されるものである。

本学としても、昭和61年度の電算化実施を目途として所要経費を要求中であるが、本計画の実現に対して全学の関係各位のご理解とご協力とをお願いすると共に、ご意見ご教示をお寄せいただければ幸いである。

第16回国立大学図書館東北地区協議会

当協議会は、去る4月18日、19日の両日、本学で開催された。東北地区の大学図書館館長、事務(部)長が出席し、本学から吉岡館長、柿沼部長、及川総務課長、熊谷整理課長、湯浅閲覧課長、桜田医学分館事務長、阿部専門員等が出席した。

協議に先立ち、吉岡館長の挨拶があり、続いて議長は慣例により当番館の吉岡館長が選出された。

出席者の自己紹介の後、議事に入り、柿沼部長から地区活動状況等について報告があり、第32回国図協総会提出協議題、実務者研修会等について審議が行われた。

東北地区として総会に提出する協議題は

(ア) 学術情報資源の確保充実について

(イ) 人材の養成確保について

を決定した。

昭和60年度の理事館および当番館については次のように確認した。

理事館：福島大学附属図書館

理事館および地区連絡館：東北大学附属図書館

次期当番館：弘前大学附属図書館

上記の会議終了後引き続き、第2回東北地区国立大学図書館機械化ネットワーク協議会が開催された。

東北地区国立大学図書館機械化ネットワーク

協議会（第2回）について

標記の協議会が、昭和60年4月18日(木)東北大学附属図書館において、地区内国立大学の館長、事務部課長の出席のもとで開催された。

会議は、吉岡当館館長により議事が進められ、本学からの当協議会設置の経緯説明のあと、東北地区国立大学図書館機械化ネットワーク協議会開発専門委員会において本年3月までに取りまとめられた「専門委員会報告」(本号8頁)について本学専門委員から説明が行われた。これに対して種々質疑応答があった後、協議会は「専門委員会報告」を了承した。

次いで、本学から昭和60年度も引き続き開発専門委員会を設置することの提案があり承認され、専門委員については、おって各館長から推薦するこ

ととした。

続いて、弘前大学及び山形大学から、学内の情報処理センターの電算機を利用して計画している図書館業務の機械化について説明があった。

図書館業務機械化開発専門委員会専門委員

(昭和60年度)

上記専門委員について、各大学から以下のように推薦の通知があった。

弘前大学	五十嵐輝雄(受入係長)
岩手大学	佐々木義一(運用係)
宮城教育大学	目黒 保吉(管理係長)
	加藤 誠吉(運用係長)
秋田大学	碓子 洋行(受入係長)

山形大学	羽鳥 昭一（専門員）	佐藤正弘（逐刊掛長）
福島大学	田中 進（雑誌資料係長）	佐藤定夫（閲覧掛長）
	小涼 正行（受入係）	（医学分館） 米澤 彰（整理掛長）
東北大学（本館）	阿部寿雄（専門員）	（北青葉山分館） 菅野博之（図書掛長）
	湯本一義（受入掛長）	（工学分館） 川村隆男（整理・運用掛長）
	小野和夫（和目掛長）	（農学分館） 武田光佳（図書掛長）

東北大学記念資料室だより

- 例年の通り、昭和59年度定年退官教官に対して、記念写真と著作目録を作成し贈呈する事業は、59年12月1日から60年4月上旬までにおいて順調に完成した。以下に掲げる該当者の全教授に写真、○印の方に著作目録が贈られた。亀井・○楠（文）・○服藤（法）・佐藤・○上山（理）・○鈴木・○森・○吉沢（医）○戸部・○渥美・○井垣・○酒井・○下飯坂・○長谷川・○高橋・○大塚・○千葉・○槌川（工）・○金田（農）・○酒井（農場）・○高橋・○菅野（教養）・○田中（金研）・○村井・○酒井（測研）・高橋（通研）・岡崎（医短大）。

著作目録は従来に継続して249巻から273巻に至り、本年度分24冊にのぼった。

- 記念資料室の資料（特に旧制第二高等学校）の収集及び整理の作業を増強するため、元本学理学部事務長山田利雄氏を、本室専門員に委嘱することとし4月1日付で発令となった。二高関係の格別の好意により、理学部附属植物園関連の二室がその作業のために提供を受けた。

- 故小宮豊隆名誉教授の生誕百年を記念する事業はご郷里の福岡県豊津町、母校豊津高校において熱心に進められ、仙台へも資料の収集に来

訪者があったが、この程、予定通り完成を見た。夏目漱石の名作＜三四郎＞のモデルといわれる小宮先生の記念園として、同地に『三四郎の森』が造られ、記念碑（碑文は友人勝本正晃本学名誉教授）が建った。また記念誌『三四郎の森』が編集刊行され、本室及び本館に寄贈された。執筆者の中には数名の本学卒業の関係深い人々の名が見えている。

- 京都大学図書館報「静脩」最近号によれば、昨年12月京都大学附属図書館は、京都大学の歴史に関する資料の収集を開始し、全学にその協力を呼びかけることになったという。収集の要項は本室のそれにほぼ近いものである。さきに東京大学にその計画あり、今またこの決定を見ると、本室の22年前の発足は正しかったと思われることである。

- 6月22日の本学開学記念日が近づいたが、本年もほぼ例年と同じ要領で「東北大学記念資料展示会」を開催する予定である。新規受入れの珍しいものや、古くからある玉虫先生像のようなすばらしい資料をご覧いただくはずである。期日等は追って広報する。

東北地区国立大学図書館業務機械化開発

専門委員会報告について

機械化開発専門委員会の設置経過及び第1回の開催については、既に「木這子」Vol. 9, No. 2 (1984)で紹介したが、第2回以降は特に「東北地区大学図書館学術情報ネットワークシステムの基本構想」について検討をした。

専門委員会は、東北地区という地理的条件があり会議を頻繁には開催することが出来ず、また専門委員全員の参加も困難であったが、昭和60年3月までに6回に亘って開催し鋭意検討が重ねられ、その成果として「東北地区国立大学図書館機械化ネットワーク協議会・図書館業務機械化開発専門委員会報告」(B5判33頁)「資料篇(別冊)」(B4判65頁)がまとめられた。

なお、本報告書が東北地区各大学での学術情報システム構想に向けて、図書館業務機械化の取り組み方の参考になれば幸いである。

以下に、その検討月日並びに報告書の目次について紹介する。

専門委員会検討月日

第2回昭和59年11月14日(水)

第3回昭和59年12月6日(水)

第4回昭和60年1月24日(水)

第5回昭和60年2月20日(水)

第6回昭和60年3月13日(水)

専門委員会報告書目次

はじめに

1. 学術情報システムの進展状況

(1) 学術情報システム構想, (2) 答申後の進展状況, (3) 目録・所在情報サービスの大学図書館とのネットワーク

2. 東北地区大学図書館の概況

(1) 地区内大学の概要と図書館間協力ネットワーク, (2) 地区内一次資料の充足度, (3) 文献複写に見る情報の充足度, (4) 各大学の学術情報システムへの対応, (5) 図書館業務機械化への対応, (6) 外部オンラインデータベース・サービスの利用状況

3. 東北地区大学図書館学術情報ネットワークシステムの基本構想

(1) 本地区ネットワーク形成の目的, (2) 本地区ネットワーク構成の概念, (3) 学術情報センター(NC)システムの機能, (4) 本地区地域センター(RC)システムの機能, (5) 図書館業務機械化対象業務の種類と範囲, (6) 本地区各館のコンピュータシステムのハードウェア, (7) 本地区各館のコンピュータシステムのソフトウェア, (8) 図書館業務電算化の手順, (9) コンピュータシステム資源(図書館専用型, 共用型)

附1. 用語解説

附2. 東北地区国立大学図書館機械化ネットワーク協議会関係

(1) 地区機械化検討の沿革, (2) 専門委員会の検討概要, (3) ネットワーク協議会要項, (4) 専門委員会構成メンバー

昭和59年度上半期文献複写実績

国立大学等図書館間で取扱われた文献複写の本学に於ける昭和59年度上半期（4月～9月）分実績は下記のとおりです。

区分 図書館名	受 付		依 頼	
	件 数	金 額	件 数	金 額
中 央 図 書 館	358 ^件 (123)	467,585 ^円 (182,455)	100 ^件 (281)	180,547 ^円 (198,300)
医 学 分 館	619 (350)	253,930 (174,700)	57 (165)	22,565 (88,980)
北 青 葉 山 分 館	441 (65)	386,860 (50,835)	163 (73)	111,900 (48,857)
工 学 分 館	409 (11)	188,145 (4,545)	83 (4)	50,420 (3,815)
農 学 分 館	76 (38)	38,780 (15,995)	38 (99)	30,950 (45,050)
合 計	1,903 (587)	1,335,300 (428,530)	441 (622)	396,382 (385,002)

（ ）内は私費で外数を示す。

昭和59年度上半期（4月～9月）分文献複写受付および依頼国立大学図書館別実績は下記のとおりです。

区分 図書館名	受 付		区分 図書館名	受 付	
	件 数	金 額		件 数	金 額
樽 大 図	41 ^件	31,180 ^円	東 大 図	14 ^件 (77)	37,542 ^円 (66,030)
東 大 法 図	5 (10)	23,670 (4,005)	京 大 図	11 (17)	64,625 (16,120)
上 教 大 図	1 (13)	1,095 (4,250)	北 大 図	5 (15)	3,620 (7,640)
千 葉 大 図	10 (3)	30,465 (1,125)	一 橋 大 図	4 (14)	10,470 (11,600)
佐 賀 大 図	13	10,985	名 大 図	1 (17)	300 (10,010)
北 大 図	8 (4)	24,015 (7,330)	大 阪 大 図	2 (11)	585 (8,565)
岡 山 図	11 (1)	23,540 (255)	千 葉 大 図	2 (9)	1,885 (5,165)
兵 教 大 図	1 (11)	620 (10,335)	北 大 医 図	3 (8)	1,500 (1,965)
高 知 大 図	12	2,190	九 大 図	8 (2)	5,595 (5,260)
福 島 大 図	1 (10)	150 (43,525)	東 工 大 図	4 (6)	1,720 (2,430)
そ の 他	255 (71)	319,675 (111,630)	そ の 他	46 (105)	52,705 (63,515)

（ ）内は私費で外数を示す。

中央図書館受付および依頼件数の多い上位10の国立大学図書館を掲げた。

昭和59年度本学教官等の寄贈図書紹介

寄 贈 者 名	著 者 名	書 名	発 行 所	発行年
北村晴朗(文・名誉教授)	日本心理学会編	心理学論文集 3—6	岩波書店	昭 6～13
〃		Bericht über den 28. Kongreß der Deutschen Gesellschaft für Psychologie in Saarbrücken 1972. Bd. 1—5	Verlag für Psychologie	1974
文学部中国文学研究室	罗广斌 杨益言	紅岩	中国青年出版社	1962
〃	波多野 太 郎編	中国方志所录方言汇编 五一九編(横濱市立大学紀要)	横濱市立大学	昭 42～47
横堀武夫(理・名誉教授)		道 ——昭和の一人一話集—— 9	中統教育図書	昭59
中島信博(教養・講師)	森 川 貞 夫編	人見綱枝文庫目録	株式会社アイオーエム	1984
大学教育開放センター	東北大学 大学教育開放セン ター	東北大学開放講座 幼年期	東北大学 大学教育開放セ ンター	昭59
〃	〃	〃 みちのくの仏像と信 仰	〃	昭59
〃	〃	〃 よりよくすりを求 めて	〃	昭59
工学部津波防災実験所	東北大学工学部津 波防災実験所・五 洋建設株式会社	日本海中部地震津波による能代港被災記 録	東北大学工学部 津波防災実験所	昭59
東北大学事務局秘書掛	白 旗 綾 夫	燈台の灯 自伝教育改革談義2	白旗綾夫	昭59
両角節爾(前入学主幹)	四川大学中文系	宋文選 上・下	新华书店北京 发行所	1980

訂 正 等

Vol. 9, No. 4,
p. 8 表1

誤		正	誤		正
蔵書 昭和58年度			年間雑誌受入数 昭和58年度		
和	1,246,094	1,246,096	和	10,146	10,149
洋	1,197,145	1,197,146	洋	11,482	11,523
計	2,443,239	2,443,242	計	21,628	21,672

p. 9 表2

蔵書(昭和59年3月31日現在)

誤			正		
和	洋	計	和	洋	計
経	127,585	250,547	127,588		250,550
農 研	20,804	9,378	20,803	9,379	
計	916,751	642,997	916,753	642,998	1,559,751
総 計	1,246,094	1,197,145	1,246,096	1,197,146	2,443,242

58年度受入数
雑誌(種類数)

誤			正		
和	洋	計	和	洋	計
応情研	()	()	3(3)	41(41)	44(44)
計	5,682(1,341)	3,957(2,819)	5,685(1,344)	3,998(2,860)	9,683(4,204)
総 計	10,146(2,474)	11,482(7,104)	10,149(2,477)	11,523(7,145)	21,672(9,622)

お 知 ら せ

○入館券の交付について

東北大学附属図書館（本館）を利用する本学の教職員及び学生は、利用者登録をし、入館券の交付を受けて下さい。交付を受けないと図書館の利用ができませんのでご注意下さい。

入館券の申込受付は、教職員・院生はメインカウンター（1階）、学生は開架閲覧室カウンター（2階）で常時おこなっております。なお教養部新入生でまだ入館券・貸出券の交付を受けていない方は開架閲覧室

カウンターまでお申し出下さい。

○開館時間の延長について

昭和60年度の延長開館の実施期間および開館時間は下記の通りです。

実施期間 昭和60年4月10日（水）～7月22日（月）

9月9日（月）～12月21日（土）

昭和61年1月10日（金）～2月22日（土）

開館時間 平日 9時～20時

土曜日 9時～17時

昭和60年度の主な図書館関係行事予定等

○昭和60年度国立大学附属図書館事務部課長会議

5月21日

東京医科歯科大学講堂

○第32回国立大学図書館協議会総会

6月13日～14日

名古屋大学附属図書館

○昭和60年度漢籍担当職員講習会

（電算処理）

6月17日～21日

京都大学人文科学研究所附属東洋

文献センター

○第7回国連寄託図書館会議

6月27日～28日

筑波大学

○昭和60年度図書館等職員著作権実務講習会

東京会場

8月7日～9日

東京大学経済学部別館第1教室

○第40回東北地区大学図書館協議会総会

9月19日～20日

東北大学記念講堂松下会館

○昭和60年度全国図書館大会

10月30日～11月1日

宮城県民会館ほか

第3分科会 大学図書館部会

10月31日

宮城県美術館

○第59次国立七大学附属図書館協議会及び

第18回国立七大学附属図書館事務部課長

会議

日程未定

大阪大学附属図書館

○東北大学附属図書館総合研修会（昭和60年度）

日程未定

東北大学附属図書館

○東北地区大学図書館協議会実務者研修会

（昭和60年度）

日程未定

東北大学附属図書館

人 事 異 動

発令年月日	旧 官 職	氏 名	新 官 職	備 考
60. 3. 1		勝 部 玲 子	整理課 事務補佐員	採 用
"		村 山 ひろ子	閲覧課 "	"
60. 3. 31	附属図書館 事務部長	谷 本 幹 男		定年退職
"	医学分館 事務長	佐 藤 初 雄		"
"	" 文部事務官	奥 井 紀美子		"
60. 4. 1	弘前大学附属図書館 事務部長	柿 沼 正 男	附属図書館 事務部長	転 任
"	附属図書館 総務課長	竹 原 悦 郎	工学部 経理課長	配 置 換
"	筑波大学図書館部 運用課長	及 川 三千男	附属図書館 総務課長	転 任
"	附属図書館 閲覧課長	徳 永 博 隆	静岡大学附属図書館 閲覧課長	"
"	岡山大学附属図書館 閲覧課長	湯 浅 富士夫	附属図書館 閲覧課長	"
"	工学分館 管理掛長	櫻 田 俊一郎	医学分館 事務長	昇 任
"	整理課 和漢書目録掛長	菅 沢 栄 治	総務課 企画・渉外掛長	配 置 換
"	整理課 洋書目録掛長	小 野 和 夫	整理課 和漢書目録掛長	"
"	総務課 企画・渉外掛長	村 岡 徹	整理課 洋書目録掛長	"
"	農学分館 図書掛長	中 島 甫	閲覧課 書庫掛長	"
"	工学分館 整理・運用掛長	栃 原 孝 夫	工学分館 管理掛長	"
"	閲覧課 書庫掛長	川 村 隆 男	工学分館 整理・運用掛長	"
"	山形大学附属図書館 医学部 分館 図書係長	武 田 光 佳	農学分館 図書掛長	転 任
"	総務課 文部事務官	橋 本 美知子	医学部附属病院 文部事務官	配 置 換
"	総務課 " (会計掛主任)	上 山 成 美	" " (給与掛主任)	"
"	サイクロトロン 総務主任	吉 田 昭 市	総務課 会計主任	"
"	整理課 文部事務官	京 極 菊 子	閲覧課 文部事務官	"
"	医学分館 文部事務官	沼 田 恵 美	医療技術短期大学部 文部事務官	転 任
"	薬学部 文部事務官	吉 川 文 子	医学分館 文部事務官	配 置 換
"		千 葉 なおみ	医学分館 事務補佐員	採 用

東北大学附属図書館報「本遣子」 第10巻 第1号（通巻第37号）発行日 昭和60年5月31日

編集委員長 南館義孝 編集委員 佐藤忠弘、小野和夫、佐藤正弘、及川恵美子

発行人 柿沼正男 発行所 東北大学附属図書館 仙台市川内 電話 代表 22-1800 (2408)